

米 J&J 製コロナワクチンを承認判断へ 国内 5 例目

2022/5/30 日本経済新聞



米ジョンソン・エンド・ジョンソン (J&J) の新型コロナウイルスワクチン=J&J提供・ロイター

厚生労働省の専門部会は 30 日、米ジョンソン・エンド・ジョンソン (J&J) 社が開発した新型コロナウイルスワクチンの承認可否を判断する。他社のワクチンとは異なり、初回の接種は 1 回で済むという特徴がある。承認されれば国内で 5 例目となる。政府が調達に踏み切れば、アレルギーなど健康上の問題がある患者にとってワクチンの選択肢が増える。J&J 傘下のヤンセンファーマが 2021 年 5 月に製造販売承認を申請していた。当時の臨床試験 (治験) では、接種を受けなかった人と比べて中等症～重症の発症を 66%減らした。重症化を防ぐ効果は 85%だった。

感染が広がったオミクロン型に対しては、南アフリカの医療従事者に追加で接種し、入院を最大で 85%防いだとの研究報告がある。

国内の 1～2 回目接種で使われた英アストラゼネカ製と同じく「ウイルスベクター」を用いる。アストラゼネカ製は若年層を中心にごくまれに血栓症が生じるため、厚労省は接種対象を原則として 40 歳以上に限定している。

J&J ワクチンでも血栓症がまれに生じる。米食品医薬品局 (FDA) によると、接種 100 万回あたり 3.23 件の頻度で血栓症が生じた。FDA は、米ファイザー製や米モデルナ製のメッセンジャー RNA (mRNA) ワクチンの接種を推奨している。アレルギー反応があるなど健康上の理由などがあれば J&J 製の接種も認めている。

国内でこれまでに承認を得たのはファイザー製とモデルナ製、アストラゼネカ製のほか、米ノババックス製のワクチン。現状では mRNA ワクチンの使用が多い。

無料で受けられる予防接種向けのワクチンとして位置付けるかは別途、専門家で作る分科会で判断する必要がある。過去にはアストラゼネカ製の接種開始が承認から数カ月遅れた例がある。

政府は現時点では J&J 製ワクチンの購入契約を結んでいない。厚労省は今後の感染の再拡大に備えて J&J 製の調達も視野に入れる。使われなければ廃棄につながる懸念があり、慎重に検討を進める。

